

ブータン王国の諸言語について ー言語多様性の現状と課題ー

西田 文信

東北大学 高度教養教育・学生支援機構

1. ブータン王国の諸言語

ブータンは言語的に多様性に富んでいる。九州程の面積に英語を含めると実に 20 以上もの言語が話されている。英語と並んで公用語であるゾンカ語やその他 2・3 の言語を除いて、言語の実態は殆ど未解明である。世界で十指に満たない数しかいないブータン言語の研究者で手分けして研究を連携して行っている。文化史や地域文化に関する文献資料の少ないブータンにおいて、現在の言語分布を詳細に分析することは、民族移動や民族の歴史的分布を解明するための重要な手がかりである。

(1) ブータン王国諸語とは？

- **Central Bodish** (中央ボディッシュ) : Dzongkha, Cho-ca-nga-cakha, Lakha, Brokpa, Tibetan, Brokkat
- **East Bodish** (東ボディッシュ) : Kheng, Bumthang, Dzala, Kurtöp, Mangdebi-kha, Chali, Black Mountain, Dakpa
- **Other Tibeto-Burman Languages** (その他のチベット=ビルマ系諸語) : Tshangla, Lhokpu, Gongduk, Lepcha
- **Indo-Aryan Language** (インド=アーリア諸語) : Lhotsamkha (Nepali)



図 1：ブータン及び周辺諸言語分布図¹

¹高橋洋氏作成の資料による。

ブータン諸語の母語話者数

Dzongkha	160,000
Cho-ca-nga-ca-kha	20,000
Lakha	8,000
Brokpa	5,000
Tibetan	1,000
Brokkat	300
Kheng	40,000
Bumthang	30,000
Dzala	15,000
Kurtöp	10,000
Mangdebi-kha	10,000
Chali	1,000
Black Mountain	1,000
Dakpa	1,000
Tshangla	138,000
Gongduk	2,000
Lepcha	2,000
Nepali	156,000

21

表 1：各言語の母語話者数²

言語名	van Driem [1991]	PHCB [2005]	Sangay [2008]	Gutman, et al. [2014]
Dzongkha	26.7%	23.1%	24.6%	28.0%
Cho-ca-nga-ca-kha	3.3%	1.9%	7.7%	4.0%
Khengkha	6.7%	5.5%	9.6%	5.3%
Bumthangkha	5.0%	1.9%	4.2%	2.7%
Dzalakha	2.5%	0.7%	2.5%	2.9%
Kurtöpka	1.7%	2.9%	1.9%	2.0%
Tshanglakha	23.0%	27.3%	37.3%	24.3%
Lhotshamkha (Nepali)	26.0%	20.9%	8.6%	25.0%

表 2：ブータン国内主要言語母語話者人口比率（参考値）³

²本表に示されていない諸言語の母語話者数に関する正確な情報は得られていないと謂ってよい。この他に、南部にはドラヴィダ系の Kurux 語が話されているが、ブータン王国の政府機関として言語研究・政策を担当しているゾンカ語開発委員会(Dzongkha Development Commission) の公的発表には当該言語のデータが存在しない。これは、同委員会が 1907 年の王政移行後の移民の言語に関しては独立した言語と見做さないという原則に基づいているためである。

³藤原（2017：151）より。同論文の 185 ページの注にある通り、「調査方法や全体の母数となる人口が異なるため、比較する妥当性に乏しく、あくまでも参考値として考えるべきである。また、主要な言語のみを抜き出して記載しているため、合計は 100%にならない。」ことに注意されたい。

(2) ブータン王国の言語状況

- ・多様な言語が錯綜して分布
多民族, 民族移動: 同化・吸収
- ・各地の言語状況: 多言語、危機言語＝消滅の危機に瀕した言語

(3) 系統分類

- ・チベット＝ビルマ系

(4) 『言語類型地理論』 橋本萬太郎

① 人類言語の発達のパターンを二分

牧畜民型言語 vs. 農耕民型言語

② ブータン諸語に特徴的なこと

ブータン諸語は数詞に 20 進法 (vigesimal system) を用いること

以下はブロカット語の数詞:

0	le ^H kor ^L	21	ke ^H tei ^H dan ^L teik ^H
1	teik ^H	30	ke ^H tei ^H dan ^L teu ^{H,h} t'am ^H ba ^H
2	ji: ^H	40	ke ^H ji: ^H
3	sum ^H	50	ke ^H ji: ^H dan ^L teu ^{H,h} t'am ^H ba ^H
4	pei ^R	60	ke ^H sum ^H
5	ŋa ^H	70	ke ^H sum ^H dan ^L teu ^{H,h} t'am ^H ba ^H
6	tu: ^R	80	ke ^H ei: ^L
7	tɕ ^L	90	ke ^H ei: ^L dan ^L teu ^{H,h} t'am ^H ba ^H
8	ge: ^L	100	ke ^H ŋa ^H
9	ku ^L	200	ke ^H teu ^{H,h} t'am ^H ba ^H
10	teu ^{H,h} t'am ^H ba ^H	300	ke ^H teɛ ^H ŋa ^L
11	teu: ^H tei: ^H	400	nie ^L teik ^H
12	teu: ^H ji: ^H	500	nie ^L teik ^H dan ^L tsa ^H ŋa ^H
13	teuk ^H sum ^H	600	nie ^L teik ^H dan ^L ke ^H ŋa ^H
14	teu: ^H pei ^H	700	nie ^L teik ^H dan ^L ke ^H teɛ ^H ŋa ^H
15	teɛ: ^H ŋa ^H	800	nie ^L ji: ^H
16	teø: ^H tu: ^H	900	nie ^L ji: ^H ke ^H ŋa ^H
17	teuk ^H tɕ ^H	1,000	teik ^H toŋ ^H teik ^H
18	teap ^H ge ^H	2,000	toŋ ^H t'a ^H ji: ^H
19	teur ^H ku ^H	10,000	toŋ ^H t'a ^H teu ^{H,h} t'am ^H ba ^H
20	ji ^R eu ^H / ke ^H tei ^H	100,000	bum ^H tei ^H

-類似の原因

① 同系, ②借用, ③偶然の一致, ④言語の普遍性

-言語地域(linguistic area)

-類似現象の例

- ・子音音素としては **retroflex** の存在が特徴的である。
- ・母音音素は5母音乃至は7母音体系である。
- ・超分節要素は, 高低アクセントか声調かで研究者により解釈が異なるが, Tshangla, Lepcha 以外の諸言語には少なくとも高低アクセントが存在することが確認されている。また, 2音節語の単音節化が広くみられる。

Consonantal Phonemes
of Bhutanese Languages

Manner	Labial	Dental	Retroflex	Palatal	Velar	Glottal
Stop	p, ph, b, (b)	t, th, d, (d)	t, th, d, (ḍ)	c, ch, j, (j)	k, kh, g, (g)	(ʔ)
Affricate		ts, tsh, (dz)				
Fricative	(ɸ), (f)	s, z, (z)		ʃ, ʒ, (ʒ)		h
Nasal	m	n		ɲ	ŋ	
Liquid			l, ɭ, r, (r)			
Glide	w			j		

表 3：子音の一覧

Vowel systems
of Bhutanese languages

Front	Central	Back
i, y	(u)	u
e, ø		o
ɛ	ə	ɔ
		ɑ

表 4：母音の一覧

② 類型特徴＋地理的分布＋歴史的分布

2. 危機言語

以下は日本言語学会のホームページより：

Q 1 危機言語とは何か？

政治経済的・文化的に優勢な大言語に圧倒されたり、より勢力のある周囲の言語に圧迫されたりして、いま地球上から急速に消滅しつつある諸言語のこと。

Q 2 なぜいま危機言語の問題が注目されているのか？

グローバル化の潮流はかつて人類が経験したことのない速度で、多くの危機言語を消滅へと追いやっている。

Q 3 言語が消滅することで、どんな問題が起こるのか？

少なくとも人間の文化の認識と人間社会の維持にかかわる問題が起こる事はほぼ確実。

Q 4 言語の消滅を防ぐにはどうしたらよいか？危機言語に対し何かできることは？

言語学者としてできる最大の仕事は、もちろん危機言語の分析・記述・記録を行うことである。ここからさらに一步を進めて、言語学者みずからが危機言語の復興保持の方向に踏み出す道も開けている。現地コミュニティの要請に応え危機言語を守るよう共に努力するということ。

Q 5 言語を消滅から守るために、世界ではどんな取り組みがなされているか？

1990年代から広く注目されるようになった危機言語の問題は、国際先住民年（1994～2004年）を機に世界的に取り上げられるようになった。中でも特筆されるのは、ユネスコ総会（2001年）が文化の多様性を尊重する宣言を採択するとともに、この多様性こそ人類の共有財産であることをうたい、国連環境計画(UNEP)が「人間をとりまく環境や文化と密接にかかわる言語を失うことは自然の教科書を失うことだ」と警鐘を鳴らすに至ったこと。このような動きと平行して世界各地で危機言語に関する会議が開催され、その会議録が出版されている。日本人研究者もまた、2003年3月のユネスコ無形文化財局に新設された危機言語部門の活動のガイドライン作りに積極的に関与し、世界の危機言語研究者との協力関係を強めている。

最後にブータン諸語の挨拶をいくつか挙げておく。

ゾンカ語（西部の言葉）

こんにちは： kuzuzangpo クズザンポーラ

ありがとう： kadrinche カディンチェラ

さようなら： shulayjaygay シュレジェゲ

マンデビ語（中部の言葉）

kuzuzangpo クズザンポーラ

drakshwe ダクシュウェ

shulayjaygay シュレジェゲ

シャルチョップ語（東部の言葉）

こんにちは： kuzuzangpo クズザンポーラ

ありがとう： kadrinche カディンチェラ

さようなら： nanneng yemrong rumei

ホツァムカ（南部の言葉）

namaste ナマステ

dannibat ダンニバート

phribetung フェリ ベトゥン



お世話になっているイエシさんご一家と 言語調査の一コマ

【参考文献】

- Ball, Jessica. 2011. *Enhancing Learning of Children from Diverse Language Backgrounds: Mother Tongue-based Bilingual or Multilingual Education in the Early Years*. Paris: UNESCO
- Schiffman, Harold F. 1996. *Linguistic culture and language policy*. London and New York: Routledge.
- Spolsky, Bernard. 2004. *Language Policy*. Cambridge: Cambridge University Press.
- van Driem, George. 2001. *Languages of the Himalayas: An Ethnolinguistic Handbook of the Greater Himalayan Region, containing an Introduction to the Symbiotic Theory of Language* (2 vols.). Leiden: Brill.
- van Driem, George. 1998. *Dzongkha*. Leiden: The School of Asian, African, and Amerindian Studies.
- アンダーソン、ベネディクト. 1997. 『想像の共同体 ナショナリズムの起源と流行』 白石さや・白石隆訳. NTT 出版.
- 西田文信. 2008. 「ブータン王国の言語政策－現状と課題－」日本言語政策学会第 10 回大会発表論文、奈良教育大学. 2008 年 11 月 9 日.
- 西田文信. 2012. 「変わるブータン、変わらぬブータン」ブータンシンポジウム招待講演. JICA 研究所. 2012 年 12 月 16 日.
- 西田文信. 2016. 『ゾンカ語基礎 1500 語』東京：大学書林.
- 西田文信. 近刊. 「オレカ語の言語的特徴について－音韻及び形態を中心に－」『東北大学高度教養教育学生支援機構紀要』4.
- 藤原整. 2017. 「ブータンの情報社会－〈情報生態系〉モデルの構築とその実践的検討－」早稲田大学大学院社会科学科学研究科学学位請求論文.